

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

## 魔界転生

配給/東映

2003 (平成15) 年4月29日鑑賞

Data

監督：平山秀幸

出演：窪塚洋介／佐藤浩市／麻生久美子

## 👁️👁️ みどころ

高校生時代に秘かに回し読んだ「くノ一忍法」作家、山田風太郎の代表作の再登場。原作（1964～1966年）は40年近く前のものだが、その発想の新鮮さは何ら衰えていない。天草四郎の妖しい魅力、そして「魔界」から「転生」してきた剣豪たちと柳生十兵衛との対決は十分楽しめる。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### <懐かしい山田風太郎小説>

山田風太郎。懐かしい作家だ。私の高校生時代には、奇想天外でかなりエロチックな『くノ一忍法』の本が学校で秘かに回し読まれていた。私は小遣いが少ししかなかったため、自分で買ったことはないが、その文章や表現には大いに「興奮」したものだ。

山田風太郎（1922年生まれ、2001年死去）は東京医科大学在学中から数々の小説を発表していたが、1958年の『甲賀忍法帖』以後、数々の『忍法帖』小説を発表した。そして「忍法」の世界に、柳生十兵衛や荒木又右衛門、宮本武蔵など数々の剣豪を登場させて、その「対決」を描き、独自の世界を展開させた。

「忍者」モノと言えば、村山知義原作の『忍びの者』も有名だし面白かった。ここでは伊賀忍者「百地三太夫（ももちさんだゆう）」や「服部半蔵」が登場する。そして、忍者「石川五右衛門」は伊賀の里を焼き払った（これを第二次天正伊賀の乱（1581年）という）織田信長を狙い、信長の死後はその後継者となった豊臣秀吉の命を狙う。これを映画化した市川雷蔵主演の『忍びの者』（1962年）、『続・忍びの者』（1963年）、『新・忍びの者』（1963年）3部作も素晴らしかった。

そしてまた最近では、司馬遼太郎原作の小説を篠田正浩監督が中井貴一主演で撮った『梟の城』（1999年）も素晴らしかった。

山田風太郎原作の「忍法」の世界は、とにかく理屈抜きで楽しむことができ面白い。その山田風太郎の代表作がこの『魔界転生』だ。

### <昔は沢田研二、今は窪塚洋介>

『魔界転生』の主演は、悲劇の美少年天草四郎時貞。かつて1981年、深作欣二監督が映画化した時の天草四郎は沢田研二。これはかなり「色気」のある四郎だったが、今回は窪塚洋介の四郎。はてこの色気は・・・？

もっとも今回は、四郎にいつも影のように従っているクララお品（麻生久美子）との「ペア」が多い。そして2人でバランスよく、島原の乱の恨み、徳川に対する憎しみ、そして「魔界転生」の執念を表現している。

そういえば、天草四郎をテーマとして大ヒットした曲に、橋幸夫の「南海の美少年」という歌があり、NHKのど自慢大会ではよく「天草四郎～美少年～」と歌われていたものだ・・・。今時こんな歌、誰も知らないか・・・？

### <柳生十兵衛は佐藤浩市>

山田風太郎は柳生十兵衛という人物（キャラクター）を最も気に入っていたようで、山田風太郎最後の作品は『柳生十兵衛死す』だ。もっとも柳生十兵衛は、山田風太郎作品だけではなく、深作欣二監督の『柳生一族の陰謀』などにも登場する、日本人にはお馴染みの人物だ。そして柳生十兵衛役は何ととっても千葉真一のオハコだった。

『魔界転生』でその柳生十兵衛を演ずるのは、最近の『壬生義士伝』（2003年）で、中井貴一演ずる新撰組隊士吉村貫一郎とわたり合ったサウスポーの剣士斎藤一を演じ、時代劇でのついでに佐藤浩市。

十兵衛は魔界から転生してきた

- ①荒木又右衛門（加藤雅也）
- ②宝蔵院胤舜（古田新太）
- ③宮本武蔵（長塚京三）、そして  
実の父親である④柳生但馬守（中村嘉葎雄）

と死闘を演じ、これを次々と倒していく。そして、最後のクライマックスは天草四郎との「対決」だ。

ストーリーは奇想天外だが、佐藤浩市の演技は実にシリアスで、「殺陣」も十分見応えがある。

### <ストーリーは島原の乱から>

1638年、3万7千の農民達を率いて徳川幕府に抵抗した島原の乱は鎮王され、一揆勢は一人残らず殺された。その「戦場」はまさにこの世の地獄絵であり、そこには神など

存在しなかった……。そしてこれを率いた総大将天草四郎の首も飛んだ。

しかし、その10年後現世に蘇った四郎は、「南海の竜」と呼ばれながら不遇を囲っていた紀州藩主徳川頼宣（杉本哲太）の下に「君臨」した。そして、頼宣の「野望」実現のため、魔界から魔界衆を呼び寄せ、頼宣の力になると約束した。

四郎に付き添うクララお品が述べる「無念、無念の思いがこの世に転生するよすがなのです」というセリフは実に説得力がある。そして魔界から転生してくる荒木又右衛門、宝蔵院胤舜、宮本武蔵、柳生但馬守らがこの世に持っていた「無念」の気持ちが十分理解できるだけに、あながち、この魔界から転生してくるストーリーも荒唐無稽なものとは思えない。

もっとも魔界衆であることの証拠を示すものとして、

<その1>眼の変化

<その2>死亡の際の崩壊による消滅

という2つのテクニックは、「ご愛敬」というものか……？

### <意外！若者に結構人気！>

「最近の日本映画はダメだ。元気がない！」と言われ続けて久しい。しかし私は「そんなことはない！」と頑固に思っている。最近の日本映画にも、『KT』、『宣戦布告』、『T. R. Y』などいい映画はたくさんあるが、なかなか話題にのぼらないだけだ。

しかし、この『魔界転生』には、昔の沢田研二主演の『魔界転生』を知らない世代の観客が結構入っていた。多分若い観客の多くは窪塚洋介がお目当てだろうが……。

しかしこの映画を見れば、少なくとも「島原の乱」、「天草四郎」、「柳生十兵衛」、「宮本武蔵」などのキーワードは覚えるはずだから、そこからさらに次の興味を持ってもらいたいと思う。

なお、スケベな(?) 私としては、山田風太郎作品を日本映画に蘇らせるのであれば、是非『くノ一忍法』モノを実現してほしいと思う。もっともその場合、ポルノ映画との線引きが難しいだろうが……。しかし何とかして、「色気」タップリだがシリアスな、『くノ一忍法』モノを是非映画化してほしいものだ。

2003（平成15）年4月30日記